0. はじめに

「水辺空間を活かしたまちづくり手法検討・調査事業」の業務委託を受け、その事業を実施するために『わかやま水辺プロジェクト』を発足した。

和歌山の市街地を流れる 5 つの川、有本川、大門川、和歌川、真田堀川、市堀川。和歌山城の外堀としても形成されたこれらの川は、かつては泳げるほどきれいで、荷物を積んだ船や屋形船が行き交い、水辺には市場や夜店が開かれるなど和歌山の環境、歴史、文化にとってとても重要な役割を果たしてきた。しかし水質が悪化した高度経済成長期以降、川はまちの裏側へと押しやられる形となり、長い間、市民にも隣接する建物にも背を向けられる存在となっていた。

しかしながら、近年では継続的に取り組んできた人々の努力により川の水質が徐々に改善されたことで、水辺に再び価値を見出し活用しようとする機運が高まりつつある。

特に市堀川はかつての和歌山城の外堀の中でも、京橋御門などを擁しまちなかの歴史的な水辺資源と考えられるが、あまり有効に活用されていない。しかし、最近になって舟運やカヌー体験、清掃活動やマーケット事業など、民間による活用が次第に行われてきており、分断されていた「かわ」と「まち」をつなげる良好な回遊軸が編成されつつある。そのような気運を受け、市堀川が持つ魅力を検証し、水辺空間を活かした、市内外の人々にとって魅力に満ち、訪れたくなるような潤いのあるまちづくりを官民が連携した視点で行うことができないかと検討をはじめた。

水辺利活用の有用性を地域の合意形成を図りつつ検証し、これを誘導するために、他都市における水辺利活用の成功事例・失敗事例を分析し、まちの動線分析や住民の意向調査、利便施設などの基礎調査も行った。更に水辺ビジョンを策定していくために、ミズベ会議での検討や水辺に対する関心を高めるためのシンポジウムなども開催した。

水辺に関心をもつ人々が増えつつあるこの機会に「わかやま水辺プロジェクト」ははじまった。このプロジェクトは官民の垣根を超え、私たちのまちの大切な資源である水辺を一緒に魅力的にしていくため、和歌山の創造的水辺の未来について語り合える場としていく。